

教材・支援機器活用実践事例フォーマット(特別支援学校版)

*この資料は、Webで公開することを前提にしています。生徒の個人情報公開の確認を取るか、個人が特定できないように作成するか、注意してください。

	実践年度	平成28年度
参加 する授 業に ついて	教科名等 (該当する教科名等を選択。 当てはまらない場合はその他 を選択し、次の単元・題材名 の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☒ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	ローマ字入力を練習しよう ～ランドセルシリーズを活用して～
	授業の目標	タイピングゲームで課題を達成することができる。
	観点別学習状況の評価 の観点 (教科の特性により設定した観点 がある場合は「その他」を選択し 記載。)	☒ 「知識・理解」 ☒ 「技能」 ☐ 「思考・判断・表現」 ☐ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 「健康の保持」 ☐ 「心理的な安定」 ☐ 「人間関係の形成」 ☐ 「環境の把握」 ☐ 「身体の動き」 ☒ 「コミュニケーション」
学習 (集 団)の 実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☒ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない 6年生・個別学習
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☒ 肢体不自由 ☒ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
子ども の実態	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☒ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☐ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 気持ちが落ち着いているときは、会話や挨拶で発声し、声が聞こえるが、慣れない環境や不安があるときは、うまく声に出せなかったり、言葉が見つからないことがある。このようにコミュニケーションについて課題がある。 その中で、日記など文字や文書でのコミュニケーションも行っているが、書字のみではなく、パソコン入力を視野に入れ、ローマ字入力のトレーニングが必要である
ICT活 用に ついて	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の 名称を記載。なお、特定の製 品に特化した実践の場合は製 品名を記載。)	ノートPC(windows 10) 教育支援ソフト:ランドセル3年生 ダブルクリップ ローマ字表 等
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(☒ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援)B活動支援(☐ B1情報入手支援 ☒ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援)C学習支援(☐ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☒ C3社会生活支援) ローマ字の習得 ローマ字入力の習得 テレビゲームを楽しむ感覚で、段階的に課題を達成しながら、ローマ字の習得とキーボードの配置を含め、タイピングに慣れることで、ローマ字入力ができるようになる。
	活用方法	PC室にあるノートPCを立ち上げ、デスクトップにあるランドセルシリーズを開き、児童自身が主体的、継続的にタイピング練習を行う。 週2時間の抽出自立活動の時間を利用し、15分間の練習を行う。 児童の体力に合わせて、無理なく行う。
効果・ 評価	ICTを活用した授業での 子どもの様子や変容お よび授業の評価	取り組んだ当初は、ローマ字表を見ながら、一つずつ確認しながらローマ字の入力を行っていた児童が、タイピング練習でキーボードに慣れてきた頃になると、入力の速度が速くなっていたり、ローマ字読みを習得している文字も増えてきた。
資料	図・写真・表等はこちら へ貼り付けてください。 (生徒の写真は個人情報公開の 確認を取っているものとする。)	   